

### 3. 筐体デザイン基準

#### 3-1. 道路案内標識のデザインに関する基本方針

ドライバー系サインの中に位置づけている108系や114系といった道路案内標識は、すでに町内外に数多く設置されており、新設する場合においても、それらと調和するようにデザインすることで、統一感のある道路景観が創出できる。

##### ■基本的な考え方

町外との広域的な連続性を保つ必要があるため、既存の道路標識の形状（F型、逆L型）をベースとする。地名や著名地点の名称など歩行者系サイン、歩車兼用系サインとの情報の整合性を高め統一感を高める。なお、本体の塗装色は景観との調和を図る。

##### ■仕様

一般的な仕様である以下に準ずるが、支柱においては**塗装仕様を基本**とする。

部材	材質
支柱	塗装仕様：STK400+溶融亜鉛めっき+静電粉体塗装
	めっき仕様：STK400+溶融亜鉛めっき
表示板	アルミニウム合金(2mm)
スライドチャンネル	アルミニウム合金(高リブ+Tアングル)
反射シート	プリズムレンズ型反射シート
	カプセルレンズ型反射シート

##### ■表示板の位置、大きさの基準

道路法に基づく「道路標識、区画及び道路標示に関する命令」により道路標識設置基準が定められており、これに整合したものとする。

- ・表示板下端の設置高：標準5.0m（最低4.7m以上）
  - ・表示文字のサイズ：20cm以上（設計速度により異なる）
- ※参考：道路標識設置基準、旅客施設ガイドライン

##### ■町内にある道路案内標識の例

塗装仕様とめっき仕様の支柱が混在しており、表記内容の見直しに合わせて可能な場合は再塗装を行う。（塗装色については次項に別途定める。）



景観に配慮された茶系の色彩の支柱



従来通りの素材色(亜鉛メッキ)の支柱

### 3-2. 標識柱・各種サインの筐体に用いる基本色

#### ■道路案内標識に用いる色彩

道路案内標識に使用する色彩については、四季を通じて様相が変わる、北広島町の景観に調和するものがふさわしい。下記の候補色の中から1色を基準色として設定する。

#### 本体塗装色の色彩について

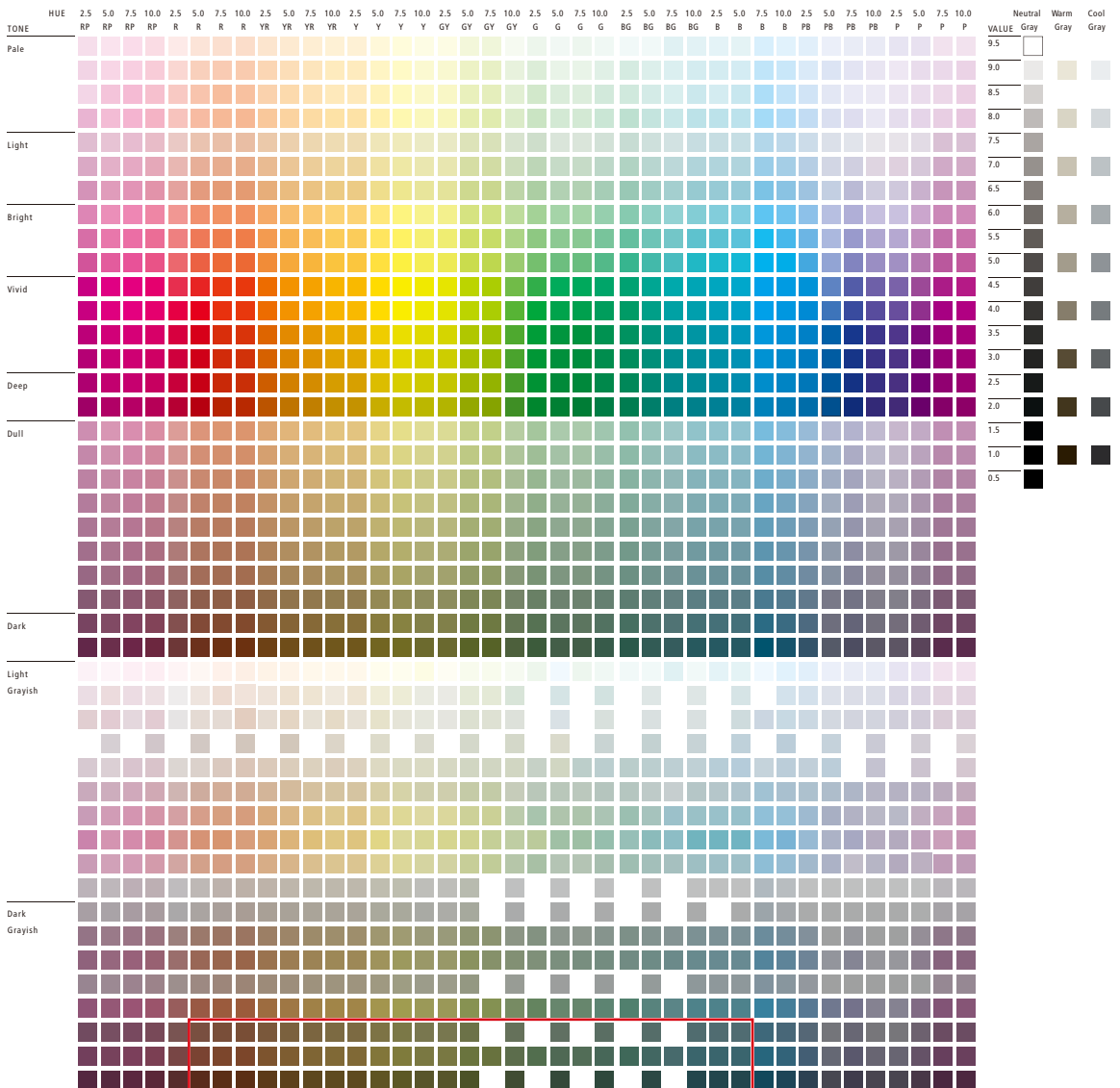
北広島町の自然の中に存在する色味に近いものから選定する。(焦げ茶系～青緑)

実際の施行段階においては塗装見本等を作成し十分な検討を行ったうえで基本色を選定する。

また、サイン板面に裏面が見えてくる場合は原則として本体塗装色に合わせることにする。



1. 自然の木々の幹を思わせる焦げ茶
2. 木の幹と葉の重なりを思わせる深い緑
3. 見渡す限り広がる山々の青緑 →ワーキング会議で基準色のベースとして設定



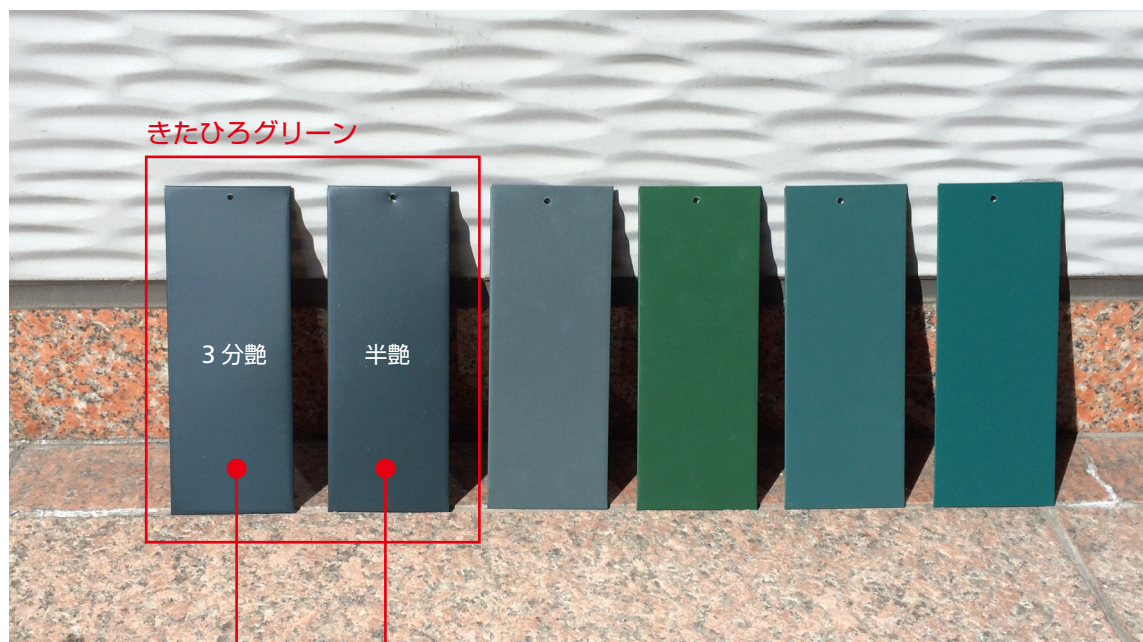
道路案内標識の筐体に用いる色彩の範囲  
これらをベースに検討

#### ■参考資料

(株)中川ケミカルと(財)日本色彩研究所が開発したカラーシステム(NOCS)を参考にして作成したカラーパレット

### ■きたひろグリーン

本計画を進める中で道の駅 舞ロードに千代田に設置する総合案内サインの設置が予定されていた。そのため前項で示した基準色のベースを基に色味の違いから塗装見本を5種類作成し検討を行った中から一番左の濃い青緑をきたひろグリーンとし、さらに半艶と3分艶の違いから使用用途の設定も行った。  
(※総合案内サインに関する詳細は第5章を参照)



きたひろグリーン 半艶塗装  
道路案内標識などはっきりと目立たせるとともに、比較的汚れがつきやすい場所のサインに使用する。

きたひろグリーン 3分艶塗装  
総合案内サインや各種筐体色に使用する。しっとりとした落ち着いた色合い。

#### ※サイン整備重点地区におけるサインの筐体・色彩

サイン整備重点地区におけるサインは、「田園文化情緒」を感じさせるものであるとともに、各エリアごとにふさわしい筐体、素材、色彩の在り方を個別に設定することとする。

(具体的な例としては【第6章 サイン整備重点地区におけるケーススタディー 八幡地区】を参照)